



デイリージーザスニュース #051 イエスのガリラヤにおける偉大な宣教

イエスはガリラヤで宣教を始める

イエスはナザレで拒絶される

LK 4.16-30 (対訳: JN 4.44)

=====

「さて、イエスは自ら、預言者は自分の故郷では尊敬されないと指摘しておられました。

16 それからイエスは、ご自分が育ったナザレに行き、安息日にいつものように会堂に入り、聖書を読むために立ち上がった。17 すると、預言者イザヤの巻物が手渡された。イエスはそれを広げ、こう書いてある箇所を見つけて、読み上げた。

18 「主の霊がわたしの上にあります。主はわたしに油を注いで、貧しい人々に福音を告げ知らせるようにされたのです。

主は私を遣わして捕らわれ人に解放を、盲人に視力の回復を告げさせられました。

人生を破壊された人々を解放するために-

19 主の恵みの時を告げるためである。」 (イザヤ書61章1-2節)

20 それから、イエスは巻物を巻き上げて係員に返し、席に着いた。会堂にいた人々は皆、イエスに目を留めた。

21 イエスは彼らにこう言われました。 「この聖書の言葉は、今日、あなたがたが聞いたとき、永遠に実現しました。」

22 皆は彼を褒め、彼の口から出る優しい言葉に驚き続けました。「この人はヨセフの子ではないのか？」と彼らは尋ねました。

23 イエスは彼らに言われた。 「あなたはきっと、このことわざをわたしに引用するでしょう。『医者よ、自分自身を治せ!』 また、わたしに言うでしょう。『カペナウムであなたがなさったと聞いているのと同じことを、あなたの故郷のこの地でも行ってください。』 24 よく言うておくが、預言者は自分の故郷では受け入れられない。25 よく聞きなさい。エリヤの時代には、天が三年半の間閉ざされ、国中にひどい飢饉が起こったとき、イスラエルには多くの未亡人がいた。26 しかし、エリヤは彼らの誰の所にも遣わされず、シドン地方のザレパテのやもめの所に遣わされました。27 預言者エリシャの時代に、イスラエルにはらい病にかかった人が大勢いたが、そのうちの一人も清められず、ただシリア人ナアマンだけが清められた。」

28 会堂にいた人々は皆、これを聞いて激怒した。29 彼らは立ち上がり、彼を町の外に追い出し、町が建てられている丘の頂上まで連れて行き、崖から突き落とそうとした。

30 しかしイエスは群衆の中を通り抜けて、自分の道を進み、 31 それからガリラヤの町カペナウムへ下って行かれた。

=====

注: 私たちは「混合テキスト」の原典福音書を次のように上付き文字で識別します: マタイ = MT、マーク = M、ルーク = L、ジョン = J、使徒行伝 = A。この「上付きID」は引用文の冒頭に挿入され、別の上付き文字が現れるまでその聖書の書を識別します。さらに、**赤い斜体はイエスの言葉を示します。**

コンテキストダイジェスト	
位置	ガリラヤのカペナウム
時間	イエスが31歳の8月（8月）
の生涯の段階	第4段階：ガリラヤでの偉大な宣教
第10章	イエスはガリラヤで宣教を始める
セクション #051	イエスはナザレで拒絶される

イエスは、カナから声をかけてカペナウムの少年に奇跡を起こした二番目の奇跡を行った後、故郷のナザレに向かった。遠く離れた場所での治癒の知らせはナザレに先立って伝わっており、イエスがさらに奇跡を起こすだろうという期待が高まっていた。イエスはナザレの会堂でのメッセージの中で、この期待について言及した。」**そして、あなたは私に言うだろう。『カペナウムで行われたと聞いているそのことを、あなたの故郷のここでも行ってください。』**」

ガリラヤとその周辺地域の人々は、イエスがユダヤを去った後、イエスの噂を聞いていたため、一般的にイエスを温かく迎え入れたことを私たちは見てきました。しかし、ナザレの人々は、イエスがガリラヤで宣教を始めた当初から、イエスをメシアとして拒絶しました。今日の朗読では、その拒絶について説明しています。

イエスは生涯を通じて、安息日の朝に会堂の礼拝に出席することを習慣としていました。これにより、イエスは王国の福音を宣べ伝える機会を常に得ることができました。これらの礼拝では、成人男性は誰でも自由に聖書を読み、勧告や教えを述べることができました。イエスは率先して立ち上がり、聖書を読み、それから話しました。

幸運にも、イザヤ書 40-66 の巻物がイエスに渡されました (イザヤ書の巻物は通常、1-39 章と 40-66 章の 2 つの巻物に分かれています)。イエスは、目的の箇所 61.1-2 をを見つけるために、巻物をほとんど広げなければなりませんでした。巻物は、現代の聖書で私たちが慣れているように、章と節に分かれていませんでした。テキストは子音文字のみで構成され、スペースや句読点はまったくありませんでした。イエスが、わずか数文のテキストの特定の箇所を見つけることができたということは、イエスがその巻物の内容をどれほどよく知っていたかを示しています。

イエスは旧約聖書全体の中で、最も明らかに救世主的な文章の一つを選びました。実際、「救世主」または「油を注がれた者」という言葉は、まさにこのイザヤの言葉から直接来ており、聖霊の油注ぎが、人々を癒し、罪から解放するという救世主の使命に力を与えることを説明しています。イエスは故郷のシナゴークで、この文章を通してガリラヤにおける救世主としての使命の到来を告げていました。それは彼と彼のかつての隣人にとって、非常に大きな精神的高揚となるはずでした。

イエスは、聖書を読んだ後、**「この聖書の言葉は、今日、あなたたちが聞いたとき、永遠に実現しました」と言いました。**原語のギリシャ語では、この言葉は、自分が救世主であるという非常に明確で力強い主張であり、間違いはありません。イエスが話し始めると、会堂の人々はイエスの言っていることに非常に感銘を受けました。しかし、明らかに、彼らの最初の肯定的な反応は間違った理由によるものでした。彼らの心を知っていたイエスは、このことを明らかにしようとしていました。

ナザレの人々は、救世主が自分たちの町の出身者、つまり自分たちの町の出身者であることを喜んだ。これによって、彼らは間もなく全世界を支配することになる新しい権力基盤に有利な立場に立つことができた。おそらく救世主はナザレに第二の宮殿と支部を建てるだろう。彼らは皆、世界を征服し、永遠に君臨することになるダビデの子とファーストネームで呼び合う仲、つまり生涯の家族ぐるみの友人になれて、とても幸せだった。彼らの貧しい町の地位は劇的に変わろうとしていたのだ。

しかし、大きな問題がありました。彼らのメシアの概念は、ダビデのような、アレキサンダー大王やローマ帝国の征服と統治を比べれば小さく見えるほどの、軍事的、政治的に強力な統治者でした。しかし、イザヤが預言したメシアは、苦しみの僕、世の罪を取り除くために来た神の子羊でした。人々の期待と、イエスのメシアとしての使命の現実はかけ離れていました。そこでイエスは愛をもって彼らに真実を語りました。

イエスは、自分の宣教は異邦人を含むすべての人々に対するものであると指摘しました。イエスは、ちょうどその前の週に、サマリアの「異教徒」シカルで起こった大規模なリバイバルの現場から去ったばかりでした。実際、ユダヤ人よりも異邦人のほうがイエスの宣教を受けることになりました。イエスは、ユダヤ人だけのための軍事的/政治的な救世主であるという彼らの誤解に陥

るつもりはありませんでした。イエスは、世界中のすべての人々の救世主として来られたのです。

イエスは、旧約聖書には神が異邦人に仕え、自らの民が積極的に神に反抗していたときには自らを隠したという有名な話が含まれていることを人々に思い出させました。ナザレでイエスが語っていたことは、聖書の証言でした。

イエスはこれらの真実を述べてナザレの人々を激怒させました。数分のうちに、人々はイエスを喜んでひれ伏していたところから、暴徒となってイエスを崖の端まで追い込み、そこから突き落として処刑しようとしていました。彼らは愛情と忠誠心が移り気で、イエスに対する態度は利己的な動機によるものでした。

一方、イエスは、比類のない神の権威を感じながら群衆の中を歩き、町を去りました。イエスは生涯でもう一度だけナザレに戻るようになります。

応用：

ユダヤ人の間で聖書における救世主の役割と使命についての誤解がイエスに絶えず問題を引き起こしました。それはイエスが死ぬまで直面する問題でした。

ナザレの人々のように、私たちが聖書を誤解したり、誤って解釈したりすると、たとえイエス自身が聖書を説明してくださったとしても、私たちは神が私たちのために何をしてくださるかについて、必然的に誤った期待を抱いてしまいます。

ナザレの人々だけが、救世主としてのイエスの真の人格と働きを認識しなかったわけではありません。私たちは皆、イエスについて間違った考えを持っています。私たちは罪深い世界に生きる罪人なのです。

イエスの生涯を毎日読むことは、実に真剣な仕事です。私たちは、自分の先入観に基づいてイエスを信じることはできません。他人の信仰に頼ることもできません。私たちは、四福音書の真実の中にあるイエスをありのままに見、悔い改めの精神でイエスに合うように自分の考えを調整し続けなければなりません。これが、学習者（弟子）としてイエスに「従う」ということなのです。

私たちは、自分自身の霊的なナザレに留まるか、イエスが私たちにご自身を現すために実際に言ったことやしたことに基づいてイエスに従い始めるかのどちらかを選びます。ナザレの人々、そして彼らがイエスを拒絶したことは、私たちも同じ過ちを犯す可能性があるという厳しい警告を与えてくれます。

イエスについてのあなたの理解は、イエスが私たちにご自身を明らかにするために語ったことや行ったことに実際どの程度基づいているでしょうか。

彼に対するあなたの見方は、他の人が彼についてどう思っているか、またあなたに何を教えたかによってどれくらい変わってきているでしょうか。

あなたの宗教環境からどれくらい影響を受けていますか？それについてどうしますか？